

# 2010年度 自己評価書

学校法人藤学園 函館藤幼稚園

## 1 本年度の重点目標

・園の建学の精神を教師一人ひとりが理解を深め、キリスト教の人間観に基づいた幼児期にふさわしい教育内容を充実していく。

## 2 本年度の経営方針

- ・一人ひとりの教師が保育の質の向上に努め、教職員一同、一致協力していく。
- ・園での幼児の様子が親に伝わるように、手紙や行事などを通して知らせていくようにする。

## 3 評価方法

評価方法は、次のとおり4段階とする。

- A 十分達成されている。                      B 達成されている。  
C 取り組まれているが、成果が十分でない。      D 取り組むが不十分である。

## 4 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	改善の方策
教育目標	1 園の創立理念・建学の精神にあるキリスト教理念を理解している。	A	キリスト教の理念を理解し、説明できるようにする。
	2 教育目標と教育方針を理解している。	A	全職員が共通理解を図り、日々の保育に努力していく。
	3 教育方針について園長と共に定期的に話し合い、理解を深めている。	A	園内研修を通して話し合い、理解を深めていく。
教育課程	4 幼稚園教育要領を理解している。	B	充分とは言えないが、各自しっかりと読み、理解を深めていく。
	5 教育目標・教育方針が教育課程に反映されている。	B	教育内容の充実や教育内容の見直しをする。
	6 職員全員の協力により教育課程を反省・評価し、必要に応じて改善している。	A	教職員が意見を出し合い、必要に応じて改善を行う。
指導計画	7 園の教育課程の具体的実施計画として、長期・短期の指導計画の関連性をふまえて作成している。	A	長期・短期の関連性を考慮し、作成している。
	8 幼児の興味・関心、生活の流れ等、実態に応じて変更できるような計画になっている。	A	幼児の必要性に応じて、臨機応変に対応できるように努めている。
	9 日々の保育の記録をとり、自ら検討すると共に教員間で話し合い、次の計画にいかしている。	A	教職員間での話し合いを通して、次の計画・実践・反省へとつなげていけるようにする。
教育環境	10 幼児にとってふさわしく安定した教育ができる環境になっている。	A	より良い環境のもとで保育できるように、努力している。
	11 施設・設備を整え、幼児の様々な活動がおこなえるようにしている。	A	園児の活動により、必要に応じて整えている。
	12 施設・設備の安全を確保する努力をしている。	A	点検を怠らず、安全には万全を期して気をつける。
	13 施設・設備の改善や計画について積極的に意見を述べている。	A	不備なところについては、意見を聞きながら改善していく。

教育内容	14	神の子として世界の平和を大切にすることを育てている。	A	平和への願いを大切にしながら、心の教育や神の愛を伝えるようにしている。
	15	生活や遊びの中で、頑張ったり、我慢したり等の豊かな心の体験が得られるようにしている。	A	子どもの遊びの中で具体的体験を通し、身につくように心掛けていきたい。
	16	生活や遊びの中でルールを守り、楽しく活動できるようにしている。	A	保育の中や遊びの中でルールを守ることで、より楽しく事を体験するようにする。
	17	身近な事象（自然的事象・社会的事象）や動植物との触れ合い、親しむとともに、生命の大切さや畏敬の念を感じとれるように努めている。	A	身近な事象などを通して、神の存在が理解できるように、聖書や紙芝居を通して伝えている。
教師の役割	18	幼児一人ひとりの心のより所としての役割を果たしている。	A	幼児一人ひとりの園児の要求に応えられるように、職員間での連絡を密にする。
	19	保護者に信頼されるように努めている。	A	保護者が安心して相談できるように努める。連絡を密にする。
	20	教師であることに誇りをもち、生きがいを感じている。	A	教師ととてプロ意識をもち、責任感をしっかり持つよう自覚する。
資質の向上	21	キリストの教えを学びそれを幼児に伝える指導法を研究している。	A	聖書の話の聞いたり、園長任せではなく自分自身で色々な研究方法を見つける努力をする。
	22	教師の専門性を高めるため自己研修等に意欲的に取り組んでいる。	B	機会がある毎に積極的に参加し、互いに伝達し、深めている。
	23	保護者の子育てへの不安、育児へのニーズを理解しようと努めている。	A	その都度、必要に応じて丁寧に対応している。
地域連携	24	カトリック教会との連携を計りキリスト教文化や伝統に触れる機会を大切にしている	A	教会の典札（復活、降誕など）に出来るだけ参加するようにしている。
	25	家庭や地域との連携を十分に図りながら保育を展開するようにしている。	A	デイケア訪問や地域のイベントに積極的に参加している。
	26	地域に伝えられている文化や伝統に触れる機会を大切にしている。	B	機会があれば、積極的に参加したい。
	27	他の教育機関等と連携や交流をし保育にいかしている。	A	小学校との連絡協議会や研修会などに参加する。他の教育機関とは、必要に応じて見学・話し合い・指導方法などの相談を受ける。
組織運営	28	園・学園の組織について知り、自分もその組織の一員としての自覚をもって行動している。	A	藤学園教員研修会などでは、組織の一員としての自覚を実践できるように参加する。
	29	職員会議等の運営・役割に応じて積極的に参加している。	A	職員間での意見を取り入れ、積極的に参加するように促していく。
	30	教職員間の連絡・調整が適切におこなわれている。	A	必要な時の連絡・調整は、正確かつ迅速に行っている。
保護者との意見反映	31	保護者からの意見を聞き、それを園長に伝え、適切に反映している。	A	意見を聞いた時には、速やかに園長に報告し、必要な時には職員間で話し合うこともあり、適切に行われている。
	32	幼児や保護者の個人情報取り扱いについて、適切な配慮がされている。	A	この件については、特に配慮している。
	33	事故、問題等が起きた場合の園長への報告・保護者への説明、対応を適切におこなっている。	A	園長への報告、保護者への説明・対応も迅速に行う。

## 5 総合的な評価結果

総合評価	理由
A	職員ひとり一人が努力し研鑽していくことによって、幼児や保護者に私たちの心性が伝わっていくと思う。これからも保育の内容を研究し、反省し実践していく。